

工芸 (彫金) : 【Little Pond】 熊坂美友さん

高さ 9cm × 幅 150cm × 奥行 150cm

真ちゅう、ステンレス、銅

以前、博物館で見た鏡を見て興味を持ったのが制作のきっかけです。今では鏡は人々に身近な存在で日常生活に欠かせないものですが、昔の銅鏡は神聖なものでした。時代によって鏡に対するイメージが違ってくるのがおもしろく感じ、この作品を制作しようと思いました。

この作品では、透かし彫りという技法を使っています。これは曼荼羅などでも使われる技法です。制作には構想から1年ぐらいかかったのですが、制作中は、技術的にも体力的にもとても苦労しました。

今後は、鏡のあり方などについてもっと研究していきたいです。この作品を制作したことによって改善点も見つかったので、いろいろな形にしていければと思っています。また、彫金にはさまざまな技術があるので、もっと学んでいきたいと思っています。

東京芸術大学講評

水がたまった水鏡から金属・石や現在のガラスの鏡に至っている様子と銅鏡などの文様をデザイン要素とし、さまざまなものを映し出す水面に生える植物は多種多様な生命体が共存しいろいろな価値観を表しています。生活の中で大切なものとは何かと明るい未来を考えさせてくれる優れた作品です。



音楽分野



田宮亮さん りょう オルガン研究分野

この度は取手市長賞を頂戴し、大変光栄に存じます。

特に音楽家にとって厳しい世情の中で、また、オルガンという日本ではまだまだなじみのない楽器の演奏家として、このような賞を頂くことは大きな励みになりました。

ご指導いただいた先生方、ならびに取手市の皆さまにはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

東京芸術大学推薦理由

田宮亮さんは、学位審査会では修士論文・修士演奏共に最優秀の成績評価を受けました。学部時代から学業優秀、人物も立派な人柄で周囲の信頼もあついている学生です。前途有望な学生であり、取手市長賞にふさわしいと判断し、推薦させていただきます。



飯塚健之介さん けんすけ ピアノ専攻

この度、取手市長賞を頂きましたことを大変光栄に存じます。

日々芸術に向き合う中でさらなるエネルギーとなり、また身が引き締まる思いです。

今、全世界がパンデミックに直面し、誰もが悩み苦しむ、また恐怖を感じています。その中で私たち芸術家に与えられた役割は何であろうかと考えます。芸術が少しでも心に優しさを生きている喜びを感じるための力となれたら、とても幸せに感じます。

©Ayane Shindo

東京芸術大学推薦理由

飯塚健之介さんの音楽性は以前から高く評価されており、理知的でありながら純朴で叙情性あふれる彼の音楽は、聞く人の心にストレートに届く魅力があります。今後どのような音楽家に成長していくか、本当に楽しみです。ぜひ、彼の今後を多くの方に応援いただけましたら幸いです。



進化し続けるアートのまち



取手市長

藤井信吾

例年、東京芸術大学卒業・修了制作における成績優秀者に授与する「取手市長賞」ですが、第29回となる令和2年度は、常行哲弘さんの油絵と、熊坂美友さんの工芸(彫金)、また令和元年度より新設された音楽分野においては、オルガン研究分野の田宮亮さんとピアノ専攻の飯塚健之介さんに決定いたしました。

それぞれの作品や演奏は、技術的に高い水準にあることはもちろんですが、作者・演者の豊かな感性とともに謙虚に日々己を磨いてやまない求道精神のようなものが伝わってきました。きっと年代を超えて多くの人に感動を与え、輝き続けることと思います。

美術分野の作品は、現在取手駅ビルのアート発信拠点であるたいけん美

じゅつ場(VIVA)内のとりでアートギャラリーで、4月28日(水)までご覧いただけます。また、音楽分野に関しては、受賞者を今年度のふれあいコンサートにお招きし、演奏をしていただく予定です。

美術作品の展示会場であるとりでアートギャラリーは、クオリティーの高い展示スペースとして徐々に評価が高まってきております。受賞作品のような鑑賞に堪える優れた作品を納得いくまで鑑賞できる環境が備わったことは、「アートのまち取手」が今後もその名に恥じない活動をしていく上で力強い土台となったと言えます。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、この1年はアーティストの活動にさまざまな制約が生

じました。そのような中、オンラインを利用した新たな取り組みが始まっています。その一つである取手市内で活動するアーティストのアトリエや、制作の様子を紹介したアート創作活動拠点オンライン公開事業は、内閣府のポータルサイト「地方創生図鑑」の注目事業の一つに掲げられました。その他には、市の所蔵作品が閲覧できるオンライン美術館の開設、無観客で行ったふれあいコンサートの映像配信などが挙げられます。

今年度もこの実績を糧に、できないことばかりに目を向けるのではなく「今だからこそできること」を考えながら、取手市ならではの新しいアートのまちを築いていきたいと思っています。